

氏名	山 縣 昭
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 3 2 1 号
学位授与の日付	昭和43年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	担癌マウスにおける下垂体前葉・副腎皮質の組織学的研究
論文審査委員	教授 平 木 潔 教授 大 藤 真 教授 小 坂 淳 夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

担癌生体の下垂体・副腎皮質系は如何なる態度にあるかは適応症候群の概念導入以来興味のある処であり又 ACTH・副腎皮質ホルモン剤の臨床的応用の考察に当っても重要事と思われ私は白血病及び乳癌マウスの下垂体前葉及び副腎皮質を組織学的に検索し正常マウスの夫れと比較した。即ち白血病マウスでは下垂体前葉3細胞百分率については α 細胞の減少と β 細胞及び主細胞の増加を認め、副腎皮質にあっては細胞の萎縮と脂質顆粒の著減が見られ皮質機能低下状態にあると推定された。

一方乳癌マウスでは下垂体前葉3細胞の百分率変動は α 細胞及び β 細胞の減少と主細胞の増加を、副腎皮質においては細胞の肥大傾向と脂質顆粒の稠密且つ微細化所見を示して寧ろ皮質は機能亢進状態にある事を示唆するものであった。何れにせよ之等担癌マウスにあっては **hormon unbalance** の状態にあり、又人白血病における副腎皮質ホルモン剤の効果と相俟って興味ある結果を得た。

(岡山医学会雑誌 第80巻 7.8号 昭43.8)

論文審査の結果の要旨

本研究は担癌生体に於ける下垂体前葉・副腎皮質の態度及び副腎皮質ホルモン剤使用の意義について実験的組織学的検索を行ない今日迄十分に確立されていなかった点について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。